

新学習指導要領に見る新聞活用ポイント

監修：植田恭子 NIE アドバイザー (都留文科大学 非常勤講師)

中学校

国語

[知識及び技能] の内容

(3) 我が国の言語文化に関する事項

○ 読書

オ 読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解すること

解説→読書は、(略)国語科で育成を目指す資質・能力をより高める重要な活動の一つである。読書をすることによって、知識や情報を得たり、新しいものの見方や考え方を知ったり、自分の考えが広がったりすることを実感できるようにすることが大切である。そのためには、例えば、学校図書館や地域の図書館などを活用するなどして、(略)読書の範囲を広げるようにすることも大切である。

→ 読書によって私たちは未知の世界や新しい情報と出会うことができる。社会で起きる出来事を網羅的に取り上げ、情報の宝庫といわれる新聞は、多様な情報との出会いの場でもある。一覧性という特徴から、知識や情報、新しいものの見方や考え方を知る上で、新聞は効果的なメディアである。さらに、紙媒体である新聞のページをめくることで、興味関心のある分野の記事にとどまらず、さまざまな記事が自然と目に飛び込んでくる。思いもよらない記事との偶然の出会いが、新しいものの見方や考え方を知ることになり、世界を広げることにつながる。また、文化面、書評欄、作家を取り上げた人物紹介欄など、読書の範囲を広げる上でも、新聞が果たす役割は大きい。

国語科における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、有用性のある新聞というメディアであり、さらなる活用を進めていきたい。

[思考力、判断力、表現力等] の内容

B 書くこと

○ 題材の設定、情報の収集、内容の検討

ア 目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し (略)

解説→(略)集めた材料を整理するとは、(略)書く目的や意図に応じて、材料を比較しながら取捨選択したり、ある観点から分類したり、情報と情報との間に事柄の順序、原因と結果、意見と根拠などの関係を見いだして整えたりすることである。(略)材料

を集める際には、本、新聞・雑誌、テレビやインターネットなどの活用が考えられる。
ウ 根拠を明確にしながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫すること
解説→ (略) 根拠を明確にするためには、まず、自分の考えが確かな事実や事柄に基づいたものであるかを確かめることが必要である。その上で、自分の思いや考えを繰り返すだけでなく、根拠を文章の中に記述する必要があることを理解して書くことが重要である。その際、例えば、根拠となる複数の事例や専門家の立場からの知見を引用することなどが考えられる。

→ 情報を発信する際に育成したいのは、根拠を明確にした情報発信である。指導事項アは、伝えることを明確にするために、集めた情報を整理することを求めており、指導事項ウは、根拠を明確にしながら、自分の考えを伝える工夫をすることを求めている。

得られた情報から、どのような情報が不足しており、次に調べるべき内容を整理し、情報収集を進めていくことになるが、継続的に情報を収集するには新聞が適している。

情報収集の手段に新聞が挙げられているが、ここではただの情報収集先にとどまらず、論理的な文章を学ばせる材料にもしたい。新聞記事からは、事実や主張を補強するために、取材内容をどのように活用しているかを学ぶことができる。取材した情報をどのように関連付け、整理しているのか、根拠を明確にするためにどのような情報を用いているのかなど、新聞記事から学ばせたい。同じ問題に関する記事を複数紙で読み比べ、情報をどのように活用しているかの違いを知ることも効果的だ。

B 書くこと

○言語活動例

ア 本や資料から文章や図表などを引用して説明したり記録したりするなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動

解説→ (略) ある事柄について、それに関連する文章や図表などを引用して説明する文章や、残しておきたい事実や事柄などについて、図表などを引用して正確に記録した文章などを書くことなどが考えられる。

イ 行事の案内や報告の文章を書くなど、伝えるべきことを整理して書く活動

解説→ (略) 報告の文章としては、新聞や報告書などが考えられる。(略) 他教科等の学習や学校の教育活動全体との関連を図り、実際に書いて伝えたり、反応を受け取ったりすることができるよう工夫することが効果的である。

→ 言語活動例イで新聞づくりが例示されている。他教科等との関連を図った新聞制作としては、代表的なものに修学旅行などの行事新聞づくり、社会科の地理的分野で学ぶ地域調査の結果をもとにした地域新聞づくり、歴史的分野で学ぶ郷土の歴史をまとめた郷土史新聞づくりなど、さまざまな実践がある。作成した新聞は、文化祭や学校公開などで掲示し、地域住民から感想をもらうこともできる。また、新聞づくりは言語活動例ア

の活動としても適している。例えば、修学旅行新聞であれば、旅行先で気付いた事実を裏付ける発言や写真、図表などを、本や資料から引用させて記事を書かせることで、指導事項ウの根拠を明確にして自分の考えを伝えることを指導できる。適切で効果的な引用の方法、分かりやすいまとめ方などを新聞の編集から学ばせることが、「情報活用能力」の育成につながっていく。

C 読むこと

○精査・解釈

ウ 目的に応じて必要な情報に着目して要約したり、場面と場面、場面と描写などを結び付けたりして、内容を解釈すること

解説→(略) 目的に応じて必要な情報に着目して要約して内容を解釈することを求めている。要約するとは、文章全体又は部分を短くまとめることである。(略) その目的や必要に応じて内容や分量、方法が異なる。(略) 目的を明確にした上で要約に取り組むようにするとともに、要約したものが目的に沿っているかどうかを考え、必要な情報を正確に捉えて要約できるようにすることが重要である。

○考えの形成、共有

オ 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにする

解説→(略) 文章を読んで理解したことに基づくとは、文章の内容や構造を捉え、精査・解釈しながら考えたり理解したりすることを基にするということである。文章とは、本や新聞、インターネットなどに掲載された多様な文や文章を指す。自分の考えを確かなものにするためには、(略) 学習過程を通して理解したことを他者に説明したり、他者の考えやその根拠などを知ったりすることが重要である。(略) 指導に当たっては(略) 日常の読書活動と結び付くようにすることが考えられる。

→ 指導事項ウの要約を指導する上で、新聞は有効な材料だ。新聞の見出しは究極の「要約」である。長文の記事には、内容を分かりやすく簡潔にまとめたリード(前文)もある。5W1Hなど、必要な情報を正確に捉えるための良い見本となる。中学1年では目的や必要に応じて要約することを求められており、それには、自分で選んだ記事をもとにして、1分間など時間を決めて内容や感想をスピーチさせる活動が有効だ。限られた時間で内容を説明する必要があるため、要約する目的や必要性を捉えやすい。生徒の興味関心のある記事をもとにするため、意欲的に取り組ませることもできる。

また、この活動は指導事項オが求めている自分の考えを確かなものにする上でも有効だ。日常の読書活動と結び付けるという観点では、朝の時間など、短い隙間の時間を活用してスクラップや1分間スピーチなどを行う「NIEタイム」と組み合わせることで効果が高まるだろう。

C 読むこと

○言語活動例

ウ 学校図書館などを利用し、多様な情報を得て、考えたことなどを報告したり資料にまとめたりする活動

解説→(略) 学校図書館や地域の図書館には、図書資料に加え、新聞や雑誌など様々な媒体の資料がある。(略) 多様な情報を得て、考えるとは、複数の資料から情報を取捨選択し、それらを基に自分の考えをもつことである。(略) まとめた資料については、印刷したり掲示したり、それを使って報告したりすることが考えられる。

→多様な資料から情報を得る活動では、ぜひ新聞も活用したい。新聞には、一つの問題について、さまざまな視点での意見が掲載されている。多様な図書資料から必要な情報を得るためには、多角的な視点を持つことが欠かせない。新聞から多角的な視点を得ることで、資料選択の幅が広がり、より広く、より深く、情報を収集することが可能になるだろう。学校図書館の資料や新聞データベースの中からも必要な情報を収集、活用できるようにしたい。また、資料としてまとめる上では、書くことの言語活動例イと関連させ、新聞形式でまとめることも視野に入れたい。

第2学年

[思考力、判断力、表現力等] の内容

A 話すこと・聞くこと

○話題の設定、情報の収集、内容の検討

ア 目的や場面に応じて、社会生活の中から話題を決め、異なる立場や考えを想定しながら集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討すること

解説→(略) 社会生活の中から話題を決めるとは、地域社会の中で見聞きしたことや、テレビや新聞などの様々な媒体を通じて伝えられることなどの中から話題を決めることである。そのためには、社会生活の中の出来事や事象に関心をもつことが重要である。(略) 社会生活の中の出来事や事象は、様々な価値観や文化を背景にしており、自分の考えを伝える際には、異なる立場や考えをもつ聞き手の存在を意識することが重要である。異なる立場や考えの聞き手に自分の考えを伝えるためには、根拠となる情報を幅広く収集することが重要である。学校図書館を有効に活用するとともに、本、新聞、インターネットなどの様々な媒体を、それぞれの特性を踏まえて活用することが考えられる

○言語活動例

ア 説明や提案など伝えたいことを話したり、それらを聞いて質問や助言などをしたりする活動

解説→話し手が伝えたいことを話したり、聞き手が質問したり助言などをしたりする言語活動を例示している。(略)

→ 中学2年では、話題や情報の収集の範囲を日常生活の中から社会生活の中へ広げることが求められている。それにはまず、生徒に社会の出来事への興味関心を持たせることが重要だ。例えば、上述の新聞から自分が好きな記事を選んで紹介する取り組みは、楽しく活動しながら、新聞にさまざまな情報が載っていることに気付くことができる。社会に興味を持つきっかけになるだろう。自分とは異なる観点で記事を選ぶ友人の発表から、多様な考えがあることに気付くこともできる。また、ここでは、異なる立場や考えを想定して、幅広く情報を収集することを求めている。どのような言葉を使うのか、資料をどのように示すのか、文章の構成をどうするかなど、情報の受け手に応じて情報の発信の仕方も変わってくることになる。

A 話すこと・聞くこと

○表現、共有（話すこと）

ウ 資料や機器を用いるなどして、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫すること

解説→(略) 資料や機器を用いるとは、話の内容に関する本、図表、グラフ、写真などを含む資料、コンピュータのプレゼンテーションソフトなどのICT機器を必要に応じて使うことである。資料や機器を用いるのは、話の要点や根拠を明らかにしたり、説明を補足したり、中心となる事柄を強調したりするなど、聞き手に分かりやすく伝えるためである。(略)

→ 話が聞き手に分かりやすく伝わるよう、資料や機器を用いるなど表現を工夫することを求めている。活用する資料の一つとして新聞があることはもちろんだが、ここでは表現の工夫を学ぶ材料としても新聞を活用したい。新聞は、図表やグラフ、写真、イラスト、地図などを用いて、読者に分かりやすく伝える工夫がされている。聞き手や読み手の理解を助けるためにどのような資料が必要かを学ぶことができるだろう。

「活動あって学びなし」という状態に陥らないようにするために、「学習の内容と方法の両方」を重視し、資料や機器を用いる上でも「何を学ぶのか」「どのように学ぶのか」を意識していきたい。

A 話すこと・聞くこと

○話合いの進め方の検討、考えの形成、共有（話し合うこと）

オ 互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめること

解説→(略) 一方的に自分の考えを主張するのではなく、互いの考えを捉える中で見い

だした共通点や相違点、新たな提案などを踏まえて話し合うことが重要である。

○言語活動例

イ それぞれの立場から考えを伝えるなどして、議論や討論をする活動

解説→自分の立場を踏まえて考えを伝えるなどして話し合う言語活動を例示している。

(略)自分とは異なる物事の捉え方や考え方があることを前提として話し合うことを求めている。

→ 答えの見つかっていない問題に対して、自分とは異なる他者とも折り合いをつけながら、協働して解決策を生み出していかなければならない時代である。新聞は時代を映す鏡であり、今という時代の答えのない問題が多数掲載されている。そうした問題について、さまざまな立場からの考えも掲載されており、立場や考えの違いを踏まえて議論・討論する材料を探すのに事欠かない。話題のニュースや、日常生活に根ざした社会問題などを取り上げることで生徒の興味関心を喚起し、意欲的に活動に取り組ませることができるだろう。

B 書くこと

○題材の設定、情報の収集、内容の検討

ア 目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、多様な方法で集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすること

解説→(略)題材を求める範囲を、地域社会の中で見聞きしたことや、テレビや新聞などの様々な媒体を通じて伝えられることなど社会生活全般へと広げている。材料を集める多様な方法とは、第1学年において示した方法に加え、学校図書館や地域の図書館、公共施設などを利用して幅広く情報を収集したり、インタビューやアンケートで当事者の声を集めたりすることなどが考えられる。多様な方法で材料を集める中で、想定していなかった情報に出会うなどした場合には、それまでの考えを改めたり別の角度から検討したりすることが重要である。(略)

→ 書くことにおいても社会生活の中から題材を設定することが求められている。それには明確な課題意識をもたせることが重要である。日頃から新聞に親しんでいると、社会生活に関連する文章への抵抗も軽減されるだろう。また、情報収集の方法として、新聞等のメディアやインターネットなどに加え、学校図書館等の活用、インタビューやアンケートで当事者の声を集めることなどが挙げられている。これらの活動はまさに、新聞記者が記事を書くために行っている取材である。取材をするための準備や記事を書くためにどのような取材が必要なのかなど、そのノウハウを新聞社の出前授業を利用して学ぶこともできるだろう。

B 書くこと

○言語活動例

ア 多様な考えができる事柄について意見を述べるなど、自分の考えを書く活動

解説→ (略) 多様な考えができる事柄とは、立場によって意見が分かれる問題や、一つの結論に収れんされず、様々な結論を導くことができる話題などのことである。そうした事柄について、自分の意見や提案を述べる文章などが考えられる

→ 立場によって意見が分かれる問題について意見を述べるなど、自分の考えを書く言語活動のひとつとして、新聞への投書があげられる。新聞の投書欄には、身近な問題から社会的な課題までさまざまなテーマの文章が取り上げられており、社会生活から題材を選ぶ上でも参考になるだろう。また、多種多様な立場からの意見が掲載されており、異なる立場、多様な考えを知る上でも有効な手段である。文章を書くに当たっても、限られた文字数でまとめる必要があるため、簡潔で分かりやすい文章を書く訓練になる。掲載されることで「自己肯定感が高まる」「意欲的に書く活動に取り組むようになる」など、学びに向かう力を育む効果も期待できる。

C 読むこと

○精査・解釈

イ 目的に応じて複数の情報を整理しながら適切な情報を得たり (略) して、内容を解釈すること

解説→ (略) 適切な情報を得るためには、情報の適否を見極めながら自分の目的に応じて整理することが大切である。(略) 本や新聞、インターネットなどの媒体の特性を踏まえ、いつ誰が発信した情報であるか、どのような立場や目的で書かれたものかなどを確認した上で、適切な情報を得るようにすることも重要である。(略)

○言語活動例

ウ 本や新聞、インターネットなどから集めた情報を活用し、出典を明らかにしながら、考えたことなどを説明したり提案したりする活動

解説→ (略) 情報を収集する手段としては、本や新聞、雑誌、インターネットなどの様々な媒体が考えられる。これらの媒体には、(略) 長所、短所がある。(略) 必要な情報を効率よく見付けるための方法も、各媒体に応じたものがある。情報を活用し、考えたことなどを説明したり提案したりするとは、媒体の特性を踏まえて情報を収集し、自分の考えを理解してもらうための根拠や具体例などとして用いて説明したり提案したりすることである。

→ 指導事項イは、自分の目的に応じて、さまざまな媒体から適切な情報を収集、整理して内容を解釈することを求めており、言語活動例ウは、媒体特性を踏まえて情報を収集し、説明・提案に生かす活動である。新聞の媒体特性、情報の特徴を学ぶ上で、新聞が

どのようにつくられているのかを知っておくと、さらに理解が深まるだろう。各新聞社（工場）が見学ツアーを用意しているほか、新聞記者らに出前授業を依頼することもできる。また、インターネットのニュースサイトやポータルサイトで提供される情報の中には、出典が新聞情報であることが往々にしてある。情報収集に当たっては、発信者にとどまらず、情報の提供元、執筆者などについても意識させたい。

これからの時代を生きる上で「新たな価値を生み出していくこと」が求められているが、媒体の特性を理解し、何よりも適切な情報を得て、自分なりの考えを構築し、情報を発信していく能力の育成が重要である。

C 読むこと

○精査・解釈

ウ 文章と図表などを結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈すること

解説→読む対象には、同じ形式で書かれた一続きの文章のほか、異なる形式で書かれた文章が組み合わされているものがある。また、概念図や模式図、地図、表、グラフなどの様々な種類の図表を伴う文章がある。文章とそれらの図表などとの関連には、断片的な情報が互いに内容を補完し合っている場合、文章が図表の解説になっている場合などがある。内容を解釈するためには、それぞれどの部分とどの部分とが関連しているのかを確認するなどして、書き手の伝えたい内容をより正確に読み取ること、その結果どのような効果が生まれているのかを考えることが重要である

→ 新聞には、さまざまな文章や図表で構成される記事がある。例えば、大きな災害を伝える記事では、災害の概要を伝える本記だけでなく、起きた背景などを伝える解説記事や識者コメント、現場の状況や声などを伝える雑感記事などが掲載される。このほかにも政府の対応、影響を受ける業界の動向、過去の災害発生状況など、さまざまな関連記事が複数の面に掲載される。これらの記事は文章に加え、災害現場の写真、発生時の状況を表したイラスト、被害の広がり伝えるための地図や表、グラフなどが併せて掲載される。このように新聞は、連続型テキストと連続型テキスト、連続型テキストと非連続型テキストを関連づけて読む力をつける上で格好の材料と言える。どのような効果が生まれているかを考える上でも分かりやすい素材だろう。日常的に新聞に接することで、複数の文章と図表を結び付けて考える習慣を付けることが読解力向上に効果的である。

C 読むこと

○精査・解釈

エ 観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や論理の展開、表現の効果について考えること

解説→ (略) 文章の構成や論理の展開、表現の効果について考えるためには、一つの文章を読むだけでなく、複数の文章を比較しながら読むことが効果的である。(略)

→ 有用な情報が選択、整理されて掲載されている新聞は学習材としての価値が高い。上述のように新聞に掲載されている文章の種類も多様である。新聞の他メディアとの大きな違いは、さまざまな種類の文章を紙面に有していることだろう。連続型テキストだけでなく、非連続テキストである図・表・データ・写真なども新聞には掲載されている。

複数紙を学習材として観点を明確にして読み比べることは、文章の構成論や論理の展開、表現の効果について考えることに直結する。同じテーマで書かれた記事や社説、コラムなどを読み比べることで、構成や論理展開、表現の工夫などの違いがより明確になる。生徒が興味関心をもてる題材を選択することで、意欲的に取り組ませることもできるだろう。

第3学年

[思考力、判断力、表現力等] の内容

A 話すこと・聞くこと

○話題の設定、情報の収集、内容の検討

ア 目的や場面に応じて、社会生活の中から話題を決め、多様な考えを想定しながら材料を整理し、伝え合う内容を検討すること

解説→ (略) 多様な考えを想定するとは、様々な考えをもった聞き手がいることを踏まえることである。同じ事柄であっても、知識や経験、立場などによって自分とは異なる多様な意見や考え方があることを前提にコミュニケーションを図ることが大切である。多様な考えをもった聞き手に対しては、特に、信頼性などを確認しながら材料を整理し、伝え合う内容を分かりやすく示すことが重要である。(略)

→ 第3学年では、第2学年同様に社会生活の中から話題を設定した上で、多様な考えを想定しながら話す内容を検討することが求められている。新聞には、多様な立場からのさまざまな考えが掲載されている。例えば、特定のテーマについて複数の識者にインタビューした記事などは、立場によって多様な考えがあることを理解する上で参考になる。また、そうした記事は識者が不特定多数の読者、つまり多様な考えを持つ読み手の存在を意識して話した内容を記事化したものだ。伝え方や材料の提示の仕方など、多様な考えを持つ相手に対して話す際の工夫を学ぶ上でも有効な資料だろう。情報を発信する上で、相手意識、他者意識をもつことの大切さを知ることは、コミュニケーション力を高めることにもつながっていく。多様な情報を活用し、自己と対話し、異なる他者との情報共有、交流を通して、よりよい答えを生み出していく活動に取り組ませたい。

B 書くこと

○題材の設定や情報の収集、内容の検討

ア 目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、集めた材料の客観性や信頼性を確認し、伝えたいことを明確にすること

解説→ (略) 題材を求める範囲を、地域社会の中で見聞きしたことや、テレビや新聞などの様々な媒体を通じて伝えられることなど社会生活全般とした上で、集めた材料の客観性や信頼性を確認することを求めている。(略) 私たちの身の回りには多種多様な情報が溢れており、(略) 真偽等の判断が難しいものが含まれている。このことに十分留意し、自分の考えを支える根拠として、客観性や信頼性の高い適切な情報を、書く材料として用いることが求められる。(略)

→ 集めた情報の客観性や信頼性を確認することを求めている。これは「情報活用能力」に含まれる「情報モラルの必要性」「情報に対する責任」と関連する。情報の発信元や出典を確認することはもちろんだが、さらに情報の客観性や信頼性を高めるには、信頼できる複数の情報に当たることが必要だ。新聞記事は、取材記者だけでなく、デスクや整理記者、校閲記者など、複数の目を通して紙面化されており、情報の客観性、信頼性は比較的高いと言える。そのような信頼できる情報を、一つではなく複数集めることで、情報の客観性や信頼性はさらに増す。複数紙を読み比べて共通点や差異を探させることで、客観的な事実は何か、信頼できる情報は何かを考えさせたい。その上で情報そのものは、送り手の意図によって編集されたものであることも押さえておきたい。

B 書くこと

○構成の検討

イ 文章の種類を選択し、多様な読み手を説得できるように論理の展開などを考えて、文章の構成を工夫すること

解説→ (略) 文章は特定の読み手に対して書く場合もあるが、不特定多数の多様な読み手に対して書く場合もある。その場合、読み手は様々な立場にあたり様々な考えをもっていたりすることを想定し、どのような読み手からも一定の理解が得られるよう論理の展開を工夫することが求められる。(略)

○考えの形成、記述

ウ 表現の仕方を考えたり資料を適切に引用したりするなど、自分の考えが分かりやすく伝わる文章になるように工夫すること

解説→ (略) 表現の仕方を考える際には、(略) 例えば、同じ内容を伝える場合も、幾つかの表現の中から適切な表現の仕方を選んだり、外部の資料を引用したりすることで、より分かりやすく伝えることができる。(略)

→ 指導事項イは、不特定多数の多様な読み手にも一定の理解が得られるよう論理展開を

工夫することを求めている。新聞記事は不特定多数の多様な読者に向けて書かれている。社説やコラムなど事実をもとに意見を述べている記事は、多様な読者に一定の理解を得るための論理展開を学ぶ上で参考になるだろう。

また、指導事項ウは、自分の考えを分かりやすく伝えるための表現の工夫や資料の適切な引用を求めている。上述のとおり、表現の工夫を学ぶ上でも、社説やコラムの読み比べは有効だ。例えば、同じテーマで書かれた社説でも、読み比べてみると伝えたい内容によって構成や文末表現、引用する資料などに違いがあることが分かる。読むことの言語活動例アと関連させた指導も可能である。

資料を適切に引用することを学ぶことは、情報を活用する上で必須である。さらに引用の仕方や出典の示し方を学ぶ機会を、意図的に設定することで定着を図ることができる。

B 書くこと

○言語活動例

イ 情報を編集して文章にまとめるなど、伝えたいことを整理して書く活動

解説→複数の情報を編集して文章にまとめるなど、伝えたいことを整理して書く言語活動を例示している。例えば、新聞、リーフレットやパンフレット、発表のための資料を作成するなど、情報を編集して文章にまとめることが考えられる。(略)

→ 複数の情報を編集して文章にまとめる言語活動の一つとして、新聞づくりが例示されている。「言語能力」「思考力・判断力・表現力」「情報活用能力」を新聞制作によって育むことができる。新聞づくりの、課題を設定し、情報を収集活用、編集し、発信していくプロセスは「情報活用能力」の育成に関わる指導事項と重なり合う。

新聞制作に当たっては、ここまで新聞について学んできた内容を生かしたい。また、複数の情報を編集して文章にまとめるプロである新聞記者に指導してもらうことも可能だ。多くの新聞社では出前授業を行っているので、相談してほしい。出前授業によって情報の送り手の思いや考え、情報創出のプロセスを知ることが、情報を読み解く上で大事な視点を得ることにつながる。

C 読むこと

○精査・解釈

イ 文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えること

解説→(略)文章を批判的に読むとは、文章に書かれていることをそのまま受け入れるのではなく、文章を対象化して、吟味したり検討したりしながら読むことである。(略)

主張と根拠の関係が適切か、根拠は確かなものであるかどうかなど、述べられている内容の信頼性や客観性を吟味しながら読むことが求められる。その上で、文章に表れているものの見方や考え方について、自分の知識や経験などと照らし合わせて、納得や共感ができるか否かなどを考えることが重要である。(略)

→ 批判的に読むことは、否定的な意味合いをもつものではない。自分で検証しながらクリティカルに読むことである。文章を対象化して、吟味しながら、検討しながら読む上で、複数紙の読み比べは有効だ。複数の記事を読み比べることで、文章を対象化しやすくなる。論理的な飛躍はないか、根拠は納得できるものであるかなど、複数の記事を比較して読むことは、記述をうのみにせず、自分の頭でじっくりと考えることにつながっていく。また、上述のとおり、情報の客観性や信頼性を吟味するには、信頼できる複数の情報に当たる必要がある。常に複数の情報を入手し、内容を吟味する態度を育みたい。

C 読むこと

○考えの形成、共有

エ 文章を読んで考えを広げたり、深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつこと

解説→ (略) 人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつとは、様々な文章を読むことを通して、そこに表れているものの見方や考え方から、人間、社会、自然などについて思いを巡らせ、自分の考えをもつことである。(略) 他者の考えと比べたりすることによって、自分の考えを広げたり深めたりすることが求められる。(略) 社会生活の中の様々な事象について、より広い視野をもって自分の意見を形成することができるようにすることが重要である。(略) 日常の読書活動と結び付くようにすることが考えられる。

→ すべての領域において、自分の考えを形成することの指導事項は位置付けられている。人間、社会、自然などについてと示されているように、より広い視野で自分の意見を持つことを求めている。上述のとおり、新聞にはさまざまな話題が載っている。自分の考えを持つ前提として、自分自身と向き合い、自分が好きな記事、印象に残った記事を選んで紹介する取り組みは、楽しく活動しながら、自分の世界を広げることができる活動だ。友人の発表から、自分とは異なる多様な考えがあることに気づき、自らの考えを広げたり深めたりすることができる。

「人間」「社会」「自然」など、取り上げるテーマを限定して行うこともできる。新聞の人物紹介欄、社会面、スポーツ面では、毎日のように話題の人物が取り上げられる。ある人に焦点を当て、友人に紹介する活動に取り組むこともできるだろう。クラスで情報を共有することで、多くの「人間」の生きざまを知ることにもなる。NIEタイムを設け、話題のひとを紹介し合うのもひとつの方法である。日常の読書活動と結び付くよ

うにするには、N I Eタイムの取り組みを参考にしたい。

C 読むこと

○言語活動例

ア 論説や報道などの文章を比較するなどして読み、理解したことや考えたことについて討論したり文章にまとめたりする活動

解説→(略)論説の文章については、新聞の論説をはじめ、物事の是非を論じる文章を想定している。また、報道の文章については、新聞や雑誌、インターネットに掲載されている文章などを想定している。(略)理解したことや考えたことについて討論したり文章にまとめたりする際には、例えば、文章を読んで得た知識や考えを基に、討論会を行ったりノートやレポート等にまとめたりすることが考えられる。

→ 新聞には、論説の文章、報道の文章ともに日々掲載されており、私たちはそれらを容易に入手できる。目的を持った情報収集を継続することも簡便である。論説、報道の文章に関連する情報も新聞には掲載されている場合が多い。一つの情報から得た知識や考えを基に、次に必要な情報、次に調べるべき内容を整理し、情報収集を行うことで考えが深まっていく。日常的に論説や報道の文章を読むことで、情報が蓄積され、新たな考えを生み出すことにつながり、さらなる課題意識を持つことにもなる。

言語活動例アは、上述した読むことの指導事項イだけでなく、話すこと・聞くこと、書くことの指導事項とも関連させて取り組ませたい。

C 読むこと

○言語活動例

ウ 実用的な文章を読み、実生活への生かし方を考える活動

解説→(略)実用的な文章としては、広告、商品などの説明資料、取扱説明書、行政機関からのお知らせなどとして書かれた多様な文章が考えられる。(略)様々な実用的な文章を、必要に応じて読み、活用することが重要である。実生活への生かし方を考えるとは、実用的な文章を読み、実生活の場面を想定した対応を考えることである。

→ 言語活動例ウは、実用的な文章を読み、実生活への生かし方を考える言語活動である。実用的な文章は取扱説明書、行政機関などのお知らせなどさまざまある。なかでも身近にあり実生活と結びつきの深い広告を読むことは、指導事項イで求めている文章を批判的に読むことを学ぶ上で有効である。広告も、新聞広告、CM、ウェブ広告、折り込み広告などさまざまあり、媒体によって広告の信頼性、客観性も異なる。多様な広告の読み方を学び、実生活に生かしていくことが重要だ。新聞というメディアそのものが日々の私たちの生活と密接に結びついており、学びの過程において効果的に活用することで「主体的・対話的で深い学び」の実現につながっていく。 以上